

第 19 回日本生殖看護学会学術集会

O-1

WEB 開催, 2021.09.12

COVID-19 流行下における通院中患者の声から見えるもの

田邊加代子<sup>1</sup>、小松原千暁<sup>1</sup>、福田愛作<sup>1</sup>、森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>IIVF 大阪クリニック <sup>2</sup>HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【目的】

日本国内でも COVID-19 の感染が広がり政府の緊急事態宣言の発令を受け、2020 年 4 月 1 日に「世界不妊学会 (IFFS)」や「国際生殖補助医療監視委員会 (ICMART)」など国際的な機関の発表を受けて、日本生殖医学会より「新型コロナウイルス感染症に対する声明」が出されるなど不妊治療患者にもその影響が波及した。そこで、不妊治療中の患者の感情の変化や子どもを持つことへの思いを調査し、不妊治療を望む人々にどのような観点からの看護介入が必要なのか検討した。

### 【対象と方法】

調査期間は 2021 年 3 月 25 日～2021 年 3 月 31 日、方法はクラウドを用いた Web アンケート、内容は不妊治療中の患者の価値観や家族観について自由回答を含む全 27 問、対象者は 2020 年 1 月～2021 年 3 月に A 院にて不妊治療中の患者延べ 4528 名、倫理的配慮はアンケート内容を学会発表する事、匿名性の保持と回答は自由意志である事を説明し回答を持って同意とし、所属する施設において承認を得た。

### 【結果】

回答数は 361 名、回答率は 7.9%であった。COVID-19 が流行し始めた時、通院に対する感情は「不安、心配になったが通院した」55.3%、新型コロナウイルス感染症に対する声明が出された時の感情は「焦燥感・不安に襲われた」25.8%、「悲しくなった」20.1%、「怒りと憤りを感じた」8.2%であった。不安・悲しみ・怒りの内容は「不妊治療が不要不急と考えられている」「不妊治療だけ延期するのは不公平」という声だった。また「治療を延期した方」11.7%。「治療をやめた方」4.0%であった。治療内容の変化は「治療の延期を推奨されたが治療を継続した」28.7%、子どもを持つことへの思いに対する変化は「子どもを望む気持ちは変わらない」が 82.0%と大多数であった。その他の自由記述欄には、「子どもがいない人生を客観的に受け止める機会になった」などの回答もあった。

### 【考察】

患者は COVID-19 への不安がありつつも「年齢的に治療は休めない」「子どもが欲しいと願う気持ちは変わらない」と切実に妊娠を望む声が多くある一方、「今後の治療継続について考える良い機会となった」と客観的に捉える方もおり、個々によって治療継続は不

安や葛藤を強く示す状況であることが分かった。

**【今後の課題】**

看護師は、COVID-19 感染予防と不妊治療の両立の為、患者の通院に対する不安軽減と治療継続の一助となるよう、オンラインによる診察や看護師相談を推進し、COVID-19 が妊娠や不妊治療に及ぼす影響などの正確な情報発信が求められることが示唆された。